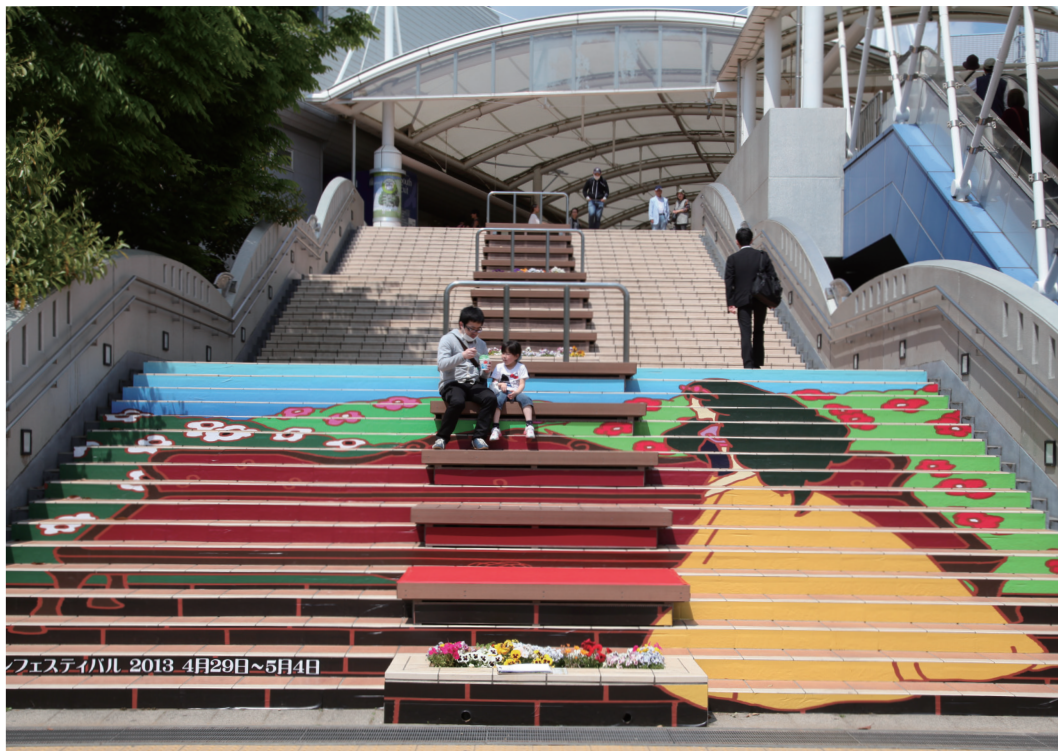


フェスティバルを彩る 江戸川大学生の階段アート

前回紹介したグリーンフェスティバルの第2弾記事。今回は江戸大生が作成した階段アートに注目。階段一面に広がる森雪姫とバラの花。江戸川大学生渾身の作品となった。(文:片田正記)



上: 流山おおたかの森駅南口の階段アート。中央には赤いソファがあり、右には森雪姫がたたずむ。

下: 階段アート原案者の有海美里さん(写真左)と作画担当の三國絵里花さん(写真右)。



流山おおたかの森ショッピングセンターから流山おおたかの森駅に向かう大階段を見上げると、そこには階段をいっばいに使った階段アートが広がる。青空の下の生け垣には赤と白のバラが咲き、中央には大きな赤いソファ。その横には流山おおたかの森のお姫様「森雪姫」がたたずむ。この美しい階段アートは江戸川大学生がデザインした。デザイナーの原案はマス・コミュニケーション学科2年の有海美里(ありかみさと)さんが考えた。昨年

の階段アートは虹がモチーフで、遠くから見ると虹の頂点部分に座って見えるようになっていた。この座って見えるアイデアは好評で、今年もそのアイデアを有海さんは活かした。階段アートの中央には赤いソファがあり、遠くから見るとその人がソファに座っているように見える。その横に森雪姫がたたずむというデザインだ。有海さんの原案を絵にしたのはマス・コミュニケーション3年の三國絵里花(みくにえりか)さんだ。当初のデザイン案では森雪姫は後ろを向いていた。ところが、絵について実行委員会との協議が必要となった。森雪姫が正面を向くのか、顔を細かく描くのか描かないかなどの修正の連続だったという。「顔は人の好みに分かれる所なので、一番苦労しました」と三國さん。最終的には顔については描かず、森雪姫は横を向くデザインとなった。このデザインをシールにして、エド・アド(大学内の仮想広告代理店)のメンバーが4月29日に階段に貼ることとなった。シール貼り作業中に雨が降ると、シールが貼りづらくなる、シワが生まれるなど、綺麗に仕上がらない。当日の天気が不安視されていた。しかし、当日は雲一つない快晴。作業も順調に進み2時間ほどで終了した。「雨が降るのではないかと心配したけど、晴れてよかった。作業自体もスムーズに進んでよかったです」。エド・アド社長のマス・コミュニケーション3年の三浦美由(みうらみゆ)さんはとほっとした様子だった。同じくエド・アドのメンバーのマス・コミュニケーション1年の川田佑樹さんは「江戸川大に入るまでこういう経験はなかった。完成すると達成感がある」と話してくれた。江戸川大学生の活躍は流山市からも注目されている。同市マーケティング課シテイセールス推進室長の筒井秀夫さんは「今後も江戸川大生には、市のイベントに積極的に参加してもらい、自由な発想で盛り上げて行ってほしい」と期待している。

学生記者募集!

学生記者クラブは、学内外のイベントや、部活動、サークル活動などを取材します。

記事は「江戸川大学学生新聞」として発行するだけでなく、ウェブにもアップして世界に向けて発信していくプロジェクトです。

「Journalism」とは「発見や感動を相手に伝えること」。あなたもジャーナリストになろう!

N棟1階の受付にお気軽に声をかけてください。連絡先: TEL(04-7152-9908)E-mail(kouhou@edogawa-u.ac.jp)企画総務課